兵庫県埋蔵文化財情報

ひょうごの遺跡

令和７年(2025)
２月13日発行
111号

(公財)兵庫県まちづくり技術センター 埋蔵文化財調査部
〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中1-1-1 兵庫県立考古博物館内 TEL.079-437-5561 FAX.079-437-5591 URL:https://www.hyogo-ctc.or.jp/

特集
阪神・淡路大震災から30年
～現代社会と遺跡の役割～

令和6年度 発掘調査成果速報

西摂津地域最大の前方後円墳を掘る
―池田山古墳 （尼崎市塚口本町）

伊丹台地南端の人々の営み
―塚口山廻遺跡（尼崎市塚口本町）

公開活用の現場から

池田山古墳・塚口山廻遺跡の公開活用

ひょうごの掘り出しもの

～第9回～　環壕の底から缶の蓋

池田山古墳 葺石検出状況

阪神・淡路大震災から30年
現代社会と遺跡の役割

◆阪神・淡路大震災と人命・遺跡の保護

写真１　阪神・淡路大震災の発生

突如、1995(平成７)年１月17日午前５時46分、大震災が発生しました（写真１）。復旧・復興工事に先立つ遺跡調査の必要が議論され始めた頃、とても寒い避難所では、「毎日多くの高齢者の方が亡くなっている（災害関連死)」との報道が多く、「住宅再建を優先するため、発掘調査すること無く、遺跡が壊れても仕方がない。人命が優先されるべき」との意見も出されていました。

一方、大震災発生後すぐの提言は、文化財に携わる私たちに勇気を与えました。【神戸新聞1995年２月５日社説：音楽の不思議な力を知った時】「(前略）被災者が人間らしい生活を取り戻すことが第一義であることは、言うまでもない。まずそのために力を尽くすべきだが一方、地域に今ある文化財が、それこそさまざまなや災厄から私たちの先輩が守り続けてきた貴重な財産であることも、再認識したい。これらを守り続ける責任を私たちは負っている。復興計画は、こうした地域の歴史と文化をしっかり視点に据えたものでありたい。食べ物は人間の体に欠かせないが、文化は心の食べ物だ。体を治す薬のように、心をいやす力を持つ。(後略)」

ただ、震災直後の混乱の中、復興工事に先立って必要な「遺跡調査」の要請が容赦無く舞い込み、調査方法の確立、予算確保、調査体制の充実が急務となりました。特に調査体制の充実が大きな課題でしたが、文化庁指導の下、全国各地の自治体からのべ100人以上もの専門職員の応援を得たことで、速やかな発掘調査の実施や報告書の刊行につながり、早期の復興をなしえました（写真２)。

写真２　復興する街と埋蔵文化財発掘調査
（神戸市　住吉宮町（すみよしみやまち）遺跡）

また、2011（平成23）年に発生した東日本大震災からの復旧・復興工事に伴う遺跡の調査にも、阪神・淡路大震災での経験が生かされました。遺跡は復興の壁ではなく、当初から「現代社会に欠かせない、大切なもの」と位置づける事になりました。

◆現代社会と遺跡の役割

地震災害の発生の度に、「想定外」の単語を耳にします。現代に生きる我々は素直に、「自然現象とは想定することが不可能な現象である」との認識を持ち続けねばなりません。「なぜその遺跡はその時代にその場所にあるのか？」「我々の先祖はなぜそこで生活を行

い、なぜその遺跡から立ち去ってしまったのか？」など、過去から受け継いできた教訓を今一度考えたいと思います。

東日本大震災の被災後、岩手県・宮城県・福島県では津波被害を受けた住宅再建が計画されました。同じ場所に住宅を建て直しても、将来必ずやってくる津波による多くの被害を予防するため、これまでの街の裏山など高台を中心に再建されました。その高台移転地には例外なく縄文時代の遺跡が存在していたのです。浦尻貝塚（福島県南相馬市）は、「貝塚」なのに標高約 25m の太平洋を見下ろす高台に存在し、東日本大震災による津波被害を受けていません。現代人の生活空間である、高台の麓に存在していた住宅地や農地は津波被害を受けています（写真３）。海からの多くの恵みを受けていた縄文人は数千年間隔でも「定期的」に津波が来ることを知っていたに違いありません（写真４）。

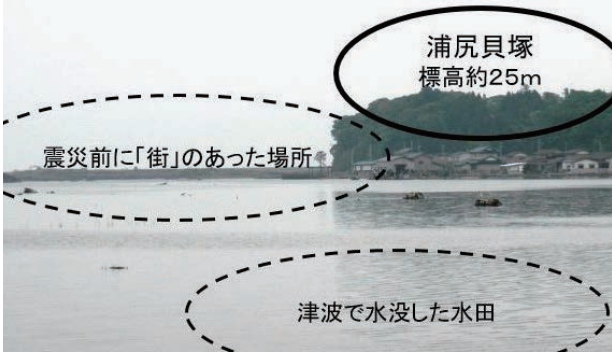


写真３　浦尻貝塚と津波の跡

写真４　縄文人の生活

玉津田中遺跡（神戸市西区）では、約 2,500 年前に弥生人の生活が始まります

写真５　弥生人の生活

写真６　玉津田中遺跡の洪水跡

（写真５）。縄文人が利用していなかった低湿地を水田に変えて徐々に開発をしましたが、約 2,100 年前頃に大規模な洪水で、約１ｍの土砂が襲い、ムラは壊滅しました（写真６）。弥生人にとっても「想定外」の自然現象だったのでしょうか？

◆未来に向かって

近年頻発する大規模災害を目の当たりにする度に、遺跡の役割・存在意義を明らかにする必要を感じています。文化財に限らずあらゆる分野で、過去から受け継いだ経験は、共有の財産として未来に繋げることが必要です。また、「非日常」の状況でも「心をいやす力を持つ」文化財の役割を、大いに発信し続ける必要性も再認識しています。　（調査部次長　山本誠）

写真１　神戸市役所ホームページ震災写真オープンデータサイト「阪神・淡路大震災『1.17 の記録』」から

写真２　兵庫県教育委員会『ひょうごの遺跡』18 号　平成７年

写真４～６　兵庫県立考古博物館　テーマ展示

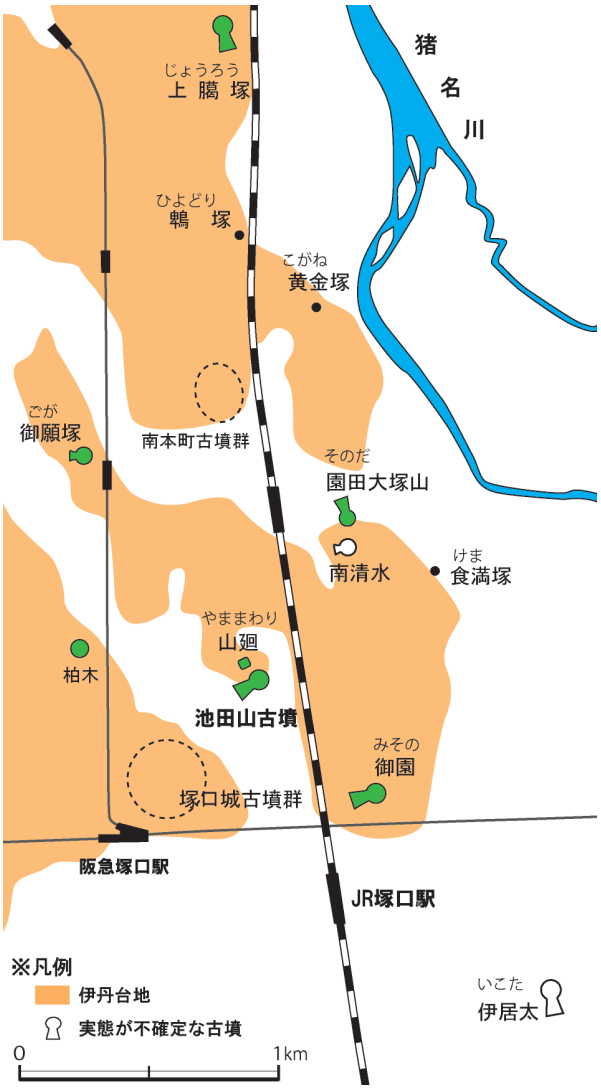
西摂津地域最大の前方後円墳を掘る

池田山古墳（尼崎市塚口本町）

動画はこちらから

池田山古墳は、尼崎市塚口本町付近に存在した前方後円墳です。出土遺物から古墳時代前期末（4世紀後半）に比定され、その規模は、大正年間に行われた古墳跡地の測量調査から71 mと推定されてきました。

古墳の所在する尼崎市北部域一帯は、東の猪名川と西の武庫川に挟まれた更新世段丘（伊丹台地）が形成されており、その南端部では数多くの古墳が築かれました**（猪名野古墳群）**。池田山古墳はその中でも最大級の古墳とされてきましたが、墳丘自体は大正時代の土取りで消失しており、長年その実態はよく分かっていませんでした。



猪名野古墳群と主要な古墳

池田山古墳の周溝（濠）を発見！

今回、県道建設に伴う発掘調査を実施したところ、池田山古墳に伴う周溝をはじめて確認しました。

周溝は、調査区東半で検出しました。残存していた周溝の幅は約13 mであり、深さは約0.3 mと浅く、底面は平坦でした。その東端はため池の造成による削平を受けていますが、古墳の前方部に向かって緩やかに立ち上がることから、実際の周溝幅はもう少し広がると考えられます。

周溝内からは弥生土器や須恵器、土師器（古墳時代中～後期）が出土しており、また円筒埴輪片も見つかりました。

さらに周溝東端では、礫がまとまった状態で多数出土しました。どれも10～20 cm大の亜円礫～亜角礫の川原石であり、墳丘に葺かれた葺石とみられます。また、葺

周溝範囲（南西から）

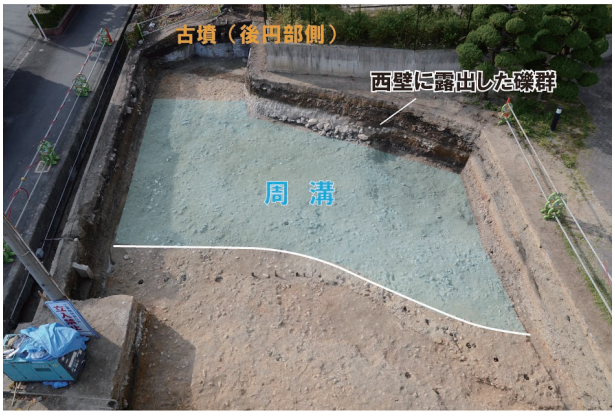
転落した葺石の検出状況（西から）

石周辺の埋土から古墳時代後期の須恵器片などが出土したため、この頃に墳丘から葺石が転落したと考えられます。

平成 26 年度調査と周溝の再確認

平成 26 年度には、同じ県道事業による発掘調査が実施されており、周溝状の落ち込みと礫が西壁に露出した状態でそれぞれ見つかりました。当調査地は池田山古墳の後円部にあたることから、当初から古墳に伴う遺構の可能性が指摘されていました。

今年度の調査成果を踏まえると、礫は今回見つかった葺石と同様であり、落ち込みも今回の周溝と同規模であることから、これら一連の遺構は、池田山古墳の周溝の一部であったと判断できます。今から 10 年前の調査ですが、古墳の規模を確定する重要な成果であったことが分かりました。



平成 26 年度調査と周溝の範囲（東から）

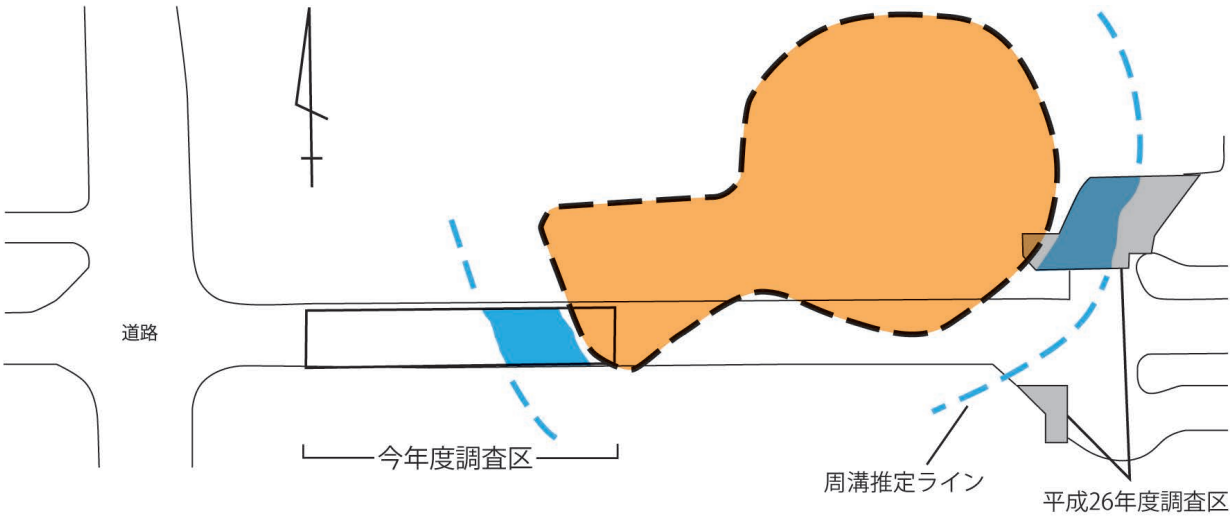
池田山古墳の実像

ここまでの話をまとめると、今年度の調査により池田山古墳の前方部にあたる周溝の一部が判明しました。周溝は北西－南東方位を指向しており、従来考えられていた池田山古墳の位置に対応しています。さらに見つかった周溝の東端では、転落した葺石とみられる礫がまとまって見つかり、池田山古墳が葺石で飾られていた古墳であったことが明らかとなりました。

最後に、今年度と平成 26 年度の調査成果を踏まえて、池田山古墳の墳長規模を改めて検討してみます。調査位置から復元すると全長は約 81m となり、従来想定された規模よりも大きくなることが分かりました。80 m級の規模とすると、猪名野古墳群及び西摂津地域（現阪神地域）では最大の前方後円墳であったということになります。今後、池田山古墳の規模の見直しや、猪名野古墳群及び周辺地域の古墳との関連を再検討する必要があるでしょう。

今回の調査では、周溝や葺石の検出、古墳の規模の見直しといった新たな発見や新知見を得ることができました。このことは、池田山古墳及び猪名野古墳群の実像を明らかにする重要な成果になったといえます。

（調査第 2 課　垣内 翼）



調査成果に基づいた池田山古墳の推定位置

伊丹台地南端の人々の営み

塚口山廻遺跡（尼崎市塚口本町）

塚口山廻遺跡は池田山古墳の周囲に所在する遺跡です。

今回の調査で発見された最も古い遺物は、サヌカイト製のナイフ形石器です。尼崎市内では初の旧石器の出土です。

また、弥生時代後期の竪穴建物１棟、掘立柱建物１棟などが見つかりました。竪穴建物は最大径約 8.6 ｍの円形で、中央に炉跡と考えられる土坑があります。２条の周壁溝が確認されたことから、建て替えが行われたと考えられます。竪穴建物の約 8m 西では、梁１間×桁２間で、2.7m × 3.2m の大きさの掘立柱建物が見つかりました。高床倉庫の可能性があり、限られた範囲の調査ではありますが、竪穴建物と掘立柱建物は１組のセットとして機能したのかもしれません。

古代の遺構として、直径 1.8m の円形の井戸を検出しました。最下部では四角い木製の井戸枠が検出されました。伴う遺物が少なく、年代の詳細は今後の検討課題です。

また、室町時代後期の直径約 0.7 ｍの土坑が検出されました。土坑の下部では、円形の箱に収められた直径 53mm の菊花双鶴鏡と瓦質土器の小型の鉢が見つかりました。埋土から元豊通宝を含む古銭５枚が出土しており、墓であったと推定されます。

今回の調査で、伊丹台地南端に位置する塚口山廻遺跡が、池田山古墳が造られる前からその後まで、様々に役割を変えながら人々に利用されていたことが明らかになりました。

（調査第２課　三好元樹）

調査区と遠くに見える六甲山地（東から）

古代の井戸から出土した木枠（西から）

弥生時代後期の竪穴建物（南東から）

室町時代後期の墓（南から）

～池田山古墳・塚口山廻遺跡の公開活用～

池田山古墳・塚口山廻遺跡の発掘調査では、池田山古墳の周溝をはじめ多くの発見がありました。その成果を多くの人に知ってもらうために行った、様々な取り組みを紹介します。

１つ目は、６月19日～９月１日に兵庫県立考古博物館のメインホールで行った速報展示です。埴輪や須恵器などの池田山古墳の周溝で出土した遺物を展示しました。

２つ目は、８月２日～29日に尼崎市立立花南（たちばなみなみ）生涯学習プラザと尼崎市立歴史博物館で実施したパネル展示です。生涯学習の拠点として、多くの人が訪れる立花南生涯学習プラザの入口で展示できたことで、これまで遺跡に触れたことがない方々に地域の遺跡の存在を知ってもらえました。

３つ目は、８月10日に立花南生涯学習プラザで行った報告会で、調査担当者２名が発掘調査について紹介しました。47名の参加があり、発表後は多くの質問が寄せられました。

４つ目は、地元の２つの小学校で行った出前授業です。９月11日には尼崎北小学校の６年生に授業を行いました。調査成果を社会科の内容と結び付けて、教科書に登場する古墳や竪穴建物、高床倉庫が近くにあったことを知ってもらえるように構成しました。10月31日の塚口小学校の授業は、３年生と６年生が同時に体育館に集まり行われました。３年生は社会科の授業で自分たちの住む地域の学習を行っています。小学校周辺が大昔にどのように利用されていたのかを理解してもらえる内容としました。両校とも出土した遺物を展示し、ナイフ形石器に対しては「思ったより小さい」などの感想が聞かれました。児童の中には、池田山古墳について調べた夏休みの自由研究を見せてくれた子もいました。

今回、様々な形で公開活用を試みました。様々な年代の方々に遺跡の情報に触れていただくことができました。

（調査第２課　三好元樹）

立花南生涯学習プラザのパネル展示

立花南生涯学習プラザで行った報告会

尼崎北小学校で行った出前授業

ひょうごの掘り出しもの

～第９回～

環壕の底から缶の蓋

（神戸市　表山遺跡）

平成８年10月、兵庫県内では発見例の少ない、環壕という防御施設を備えた弥生時代後期初頭の高地性集落が見つかった、表山遺跡の発掘調査が佳境を迎えていました。

現地説明会を終え、発掘調査は、環壕が埋まった過程の土層を観察するための畦を取り除く、という作業を残すのみでした。

その作業も終わろうとしていた時、環壕の底から一面の鏡が見つかりました。鏡は、面径約4.8㎝でとても小さく、見つけた発掘作業員さんは、最初、缶の蓋だと思ったそうです。詳しく調べてみると、この鏡は、弥生時代後期初頭に北部九州で作られた小形の国産鏡（小形仿製鏡）で、作られて直ぐに表山遺跡の集落に持ち込まれ、環壕が埋まる直前に棄てられたことが分かりました。

表山遺跡は、後期初頭のとても短い間に営まれた集落で、鏡は、その出土状況から、弥生時代後期初頭という時期にほぼ特定できる事が分かりました。そして、時期が特定できる鏡としては、今のところ、近畿で最も古いものと考えられています。

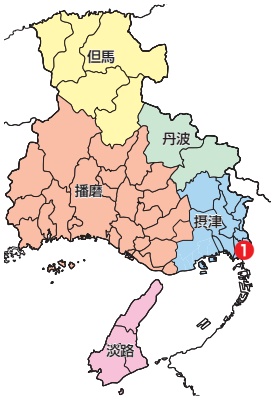
環壕の底で見つかった小さな鏡は、歴史をひもとく大きな掘り出しものとなりました。

（整理保存課長　深江英憲）

写真１　表山遺跡出土の小形仿製鏡

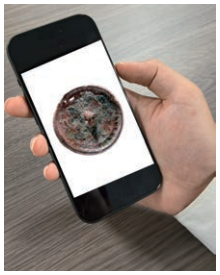
（兵庫県立考古博物館提供）

本誌に掲載の遺跡



①池田山古墳・塚口山廻遺跡
尼崎市塚口本町

掘り出しものをご自宅で！



３Ｄはこちらから

右上のQRコード読み込むことで、お手元のスマートフォンからでも「掘り出しもの」の３Ｄデータを見ることができます！

編集後記

震災30年の節目にあたり、文化財がもつ「心をいやす力」が届くよう、発信し続けたいと思いを強くしたところです。県内各地で発掘調査は続いています。次号はこうした調査成果をまとめてご紹介します！

（調査第１課　椿野智之）

『ひょうごの遺跡』バックナンバーはこちら！

https://www.hyogo-koukohaku.jp/modules/book/index.php?action=PageList&category_id=3

https://www.hyogo-ctc.or.jp/iseki/

１～82号　考古博物館HP

83号～　CTC HP

公益財団法人 兵庫県まちづくり技術センター
Hyogo Construction Technology Center for Regional Development

2405 埋 2A4